

2022 年度実施概要

学校名

気仙沼市立大谷幼稚園

採択活動名

海や人との関わりを楽しむ幼児の育成

～地域の海や働く人との関わりを通して～

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 海の生き物観察, 春と秋の遠足 (魚市場見学など), 海の絵本読み聞かせ	全園児	
2. 大谷海岸散策, 中華高橋工場見学, 日門漁港見学, 海の思い出缶づくりなど	年中・年長児	
3. 大谷イモ (海藻肥料で育てた馬鈴薯) マスターとの交流	年中児	

取り組みの概要

◎主な保育実践

【年間の活動実践の流れ】

- 4月～年間：大谷探検 (全園児)
- 5月10日：大谷海岸散策 (年中・年長児)
- 5月12日：海の生き物観察 (全園児)
- 5月17日：中華高橋大谷工場見学 (年中・年長児)
- 5月26日：春の親子遠足 サンオーレそではま (全園児親子)
- 6月1日：海洋幼稚園子どもサミット in 小泉海岸 (年長児)
- 6月14日：日門漁港見学 (年長児)
- 6月17日：保育参観日 海のいいもののリース作り (全園児親子)
- 7月～：海のごっこ遊び→夏祭りでの「海のお店屋さんごっこ」
- 9月7日：大谷イモマスターとの交流① (全園児)
- 10月6日：秋の遠足 海の市 魚市場見学 (全園児)
- 10月12日：うみのようちえん 沼尻海岸 (全園児)
- 10月26日：おおやっこの秋祭り (全園児)
- 12月25日：うみのお姉さん絵本読み聞かせ (全園児)
- 2月27日：海の思い出缶作り (年長児)
- 2月24日：大谷イモマスターとの交流② 畑に海藻をまく (年中児)
- 3月24日：大谷イモマスターとの交流③ 種イモを植える (年中児)



中華高橋見学で、働く人と交流する様子



日門漁港見学で、地域特産のマンボウを見せてもらっている様子

【働く人との関わり】

・中華高橋見学

地域でサメ(フカヒレ)の加工を行っている工場を見学させてもらった。気仙沼の特産がフカヒレであること、それが自分たちの住む地域で加工されていること、出来上がるまでにはとても繊細な作業を工場の人が行っていることに驚き、心を動かされている姿が見られた。

・日門漁港見学

地域の漁港を見学したり、漁師さんとの交流を行ったりした。自分たちの身近な海でとれる魚の多様さや、それを捕ってくる漁師さんの偉大さを感じ、心を動かされていた。目の前で捌いてもらった魚を食べる経験は衝撃的で、それを友達と一緒に経験できたことが、その後の「海」を共通のイメージにしたごっこ遊びへの思いへとつながっていった。

・海の栄養を受けて育つ「大谷イモ」との出会いと「大谷イモマスター」との交流

「道の駅 大谷海岸」へ出向き、海藻を肥料として育つ地域の特産品「大谷イモ」に出会った。幼児自らが感じた「なぜ伝説と言われているのか」という疑問を解決するために、大谷イモの生産者(大谷イモマスター)との交流会を行った。自分から積極的に質問をし、大谷イモマスターと関わろうとする姿が見られた。

【園内での友達との関わり】

・地域で感じたことを伝え合う「おおやっこタイム」

・さまざまな「海ごっこ」（フカヒレスープやさんごっこ、大谷イモやさんごっこ、氷の水族館ごっこ 等）

地域で得た「共通体験」を「おおやっこタイム」で語り合い、友達と思いを共有したり、ビデオやドキュメンテーションを活用したりして追体験し、思いを深めていった。この時間を丁寧に行うことで、その後のごっこ遊びの中でも、思いを共有しやすかったり、互いに思いを言葉で伝え合ったりする姿につながっていったものとする。

・「海のものクッキング（寒天・大谷イモピザ）」「海のもの試食（鯛・シャークナゲット・フカヒレスープ）」

生産者や漁師さんとの交流を行った後に、クッキングや試食を行ったことで「様々な人の思い」を知って大切に食べようとする姿につながった。



大谷イモを使ったピザ作りに挑戦する様子



中華高橋見学後のサメのおみこし制作をする様子



年長児が体験したことを動画を活用して年下の友達に説明している「おおやっこタイム」の様子

【園外の友達との関わり】

・市立各幼稚園との交流（幼稚園海洋子どもサミット in 小泉海岸）

5園が小泉海岸に集まり、海での遊びを楽しんだ。事前に顔写真交流やオンライン交流を行っていたこともあり、友達と会えたことを喜ぶ姿が見られた。楽しかった思いを共有できたことで、他園でありながらもその後の関わりの様子から、親近感を抱いていたことが窺えた。



サミットで思いきり楽しむ様子

・市内各幼稚園との交流（作品・サメの骨・栽培物交流）

サミット後、「あの時の友達にあげたい」とのつぶやきから自分たちが興味をもった「サメの骨」などを利用して作ったキーホルダーを各園へ送った。「自分たちの地域の海のもの」を使ってプレゼントを作ったことで、相手に伝えたいという気持ちを高めたと考えている。



他園から届いたプレゼントに喜ぶ様子

【成果と課題】

(1) 成果

- ・今年度は、気仙沼市立の5幼稚園が一堂に会し、海で思いきり遊ぶ「海洋幼稚園子どもサミット」を開催することができた。サミットを通して、自分たちと同じように海が大好きな友達の存在を知り、親近感を抱いたようだった。また海での遊びを思いきり楽しんだ共通体験が、思いの共有につながっていった。
- ・そのような活動が土台となり、積極的に友達と関わろうとする幼児の姿が見られるようになってきた。その中では「これ、サミットで友達になったあの子にもあげたいな」とつぶやいたり、実際に手紙やプレゼントを自分たちで準備しようとする姿も見られた。海を介してつながった友達との関わりを通して、他者を思いやったり互いに認め合ったりする姿につながっていった。
- ・海洋幼稚園子どもサミットに関わって、市内5園の教員同士のつながりを強めることもできた。幼児の興味や関心についてのエピソードを共有しながら多角的に捉えたり、その後の活動の広がり方や指導の在り方についてを互いに学び合ったりして、指導力向上の一助となったと考えている。
- ・地域で働く人との関わりは、幼児の心を大きく動かし、その後の主体性や探求心を高めていった。その中では地域で働く人が、様々な工夫をしていることを知り「どうしてなんだろう」と疑問を解決しようとする姿が見られた。体験したことから思いが広がって自ら図鑑で調べたり、地域で働く人のすごさに気付く、他の幼稚園の友達に誇らしげに話をするなどの姿が見られたりしたことから、自分の住む地域に対しての誇りをもつ気持ちにつながっていくことを期待している。
- ・漁船見学など、地域で継続している体験活動も5年目となり、協力をいただく地域の方と活動の目的の共有をすることができていると感じている。地域全体で温かな雰囲気をつくり、受け入れてくださっていると感じている。

(2) 課題

- ・毎年継続して海洋教育に取り組んでいるが、幼児一人一人の興味関心はそれぞれ違っており、探求心が高まるようにそれを見取って適切な環境構成や援助をしていくこと、また園内の教員同士で情報を共有しながら取り組んでいくことに難しさを感じている。幼児教育において、幼児の興味関心を見取りながら活動を組み立てていくことや、人とのつながりはとても重要である。幼児の経験する内容について園全体で吟味し、発達年齢に合わせた細やかな計画を立てていく必要性を感じた。